

Dexerials

デクセリアルズ 環境・社会報告書

2016



経営理念

Integrity

誠心誠意・真摯であれ

企業ビジョン

Value Matters

今までなかったものを。
世界の価値になるものを。

私たちデクセリアルズグループは、「Integrity 誠心誠意・真摯であれ」という言葉を経営理念に掲げています。

お客さまに対して、また社会に対して、一人ひとりの社員が自分の持てる力を精一杯発揮し、その実績を着実に積み上げていく企業集団でありたい。こうした想いを社会の公器たる企業としての根幹に定めたものです。

そして、社員一人ひとりが自らの価値を高め、お客さまに利益をもたらす価値の提供者として、常に新たな創造にチャレンジしていく姿勢を、「Value Matters 今までなかったものを。世界の価値になるものを。」という企業ビジョンによって明確化しました。

「Integrity」と「Value Matters」。この2つの言葉に託した想いを胸に、私たちは前進し続けます。

■ 会社概要

商号	デクセリアルズ株式会社 (英文名: Dexerials Corporation)
本社所在地	〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー8F
代表取締役社長	一ノ瀬 隆 (いちのせ たかし)
設立	2012年6月20日
資本金	15,747百万円
連結売上高	62,654百万円 (2016年3月31日現在)
社員数	2,317名 (2016年3月31日現在)
事業内容	電子部品、接合材料、光学材料などの製造・販売
主要営業品目	異方性導電膜 (ACF)、光学弾性樹脂 (SVR)、光学関連フィルム、表面実装型ヒューズ、工業用接着剤、工業用接着テープ、光ディスク用紫外線硬化型樹脂、熱伝導シート、タッチパネルモジュール、スパッタリングターゲット、無機波長板、無機偏光板、太陽電池用タブ線接合材料
国内事業所	鹿沼事業所、多賀城事業所、なかだ事業所、根上事業所

■ 海外連結子会社

Dexerials America Corporation
Dexerials Europe B.V.
Dexerials (Suzhou) Co., Ltd.
Dexerials Advanced Material (Suzhou) Co., Ltd.
Dexerials (Shenzhen) Corporation
Dexerials (Shanghai) Corporation
Dexerials Hong Kong Limited
Dexerials Taiwan Corporation
Dexerials Korea Corporation
Dexerials Singapore Pte. Ltd.

■ 取締役・監査役

代表取締役社長	一ノ瀬 隆
代表取締役	安藤 尚
取締役	永瀬 悟
取締役*	平野 正雄
取締役*	藤田 浩司
取締役*	横倉 隆
取締役*	高松 和子
常勤監査役*	佐竹 俊哉
監査役*	高田 敏文
監査役*	佐藤 りか

* 会社法に定める社外取締役、社外監査役
(2016年6月23日現在)

編集方針

この報告書は、デクセリアルズ株式会社の環境・社会活動をみなさまにご報告し、ご理解いただくためのコミュニケーションツールとして発行しています。

対象範囲:本報告書は、デクセリアルズ株式会社の国内および海外の事業所を対象としています。

対象期間:本報告書は、2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)の活動実績を原則とし、一部の報告・データについては過去および最新情報を記載しています。

参考ガイドライン:環境省発行「環境報告ガイドライン(2012年版)」

デクセリアルズ株式会社のホームページ「CSR・環境/環境活動」についてもご覧ください。

<http://www.dexerials.jp/csr/>

目次

経営理念・企業ビジョン	
編集方針・目次	01
トップメッセージ	02
デクセリアルズグループの事業活動	04
製品紹介	06
環境対応製品	08
<hr/>	
コーポレート・ガバナンス	10
<hr/>	
環境への取り組み	
環境理念と基本方針	12
環境マネジメント体制/環境監査体制	13
環境負荷の全体像	14
法規制遵守	18
地域社会に貢献する環境活動	20
<hr/>	
安全への取り組み	
労働安全衛生・防災	22
<hr/>	
社会との関わり	
株主・投資家のみなさまとともに	25
お客さまとともに	26
お取引先さまとともに	27
地域社会とともに	28
社員とともに	30

新しい価値を創造し、 人間社会と地球環境の豊かさと質の 向上に貢献する会社であり続けます。

デクセリアルズを取り巻く事業環境

2015年度の当社を取り巻く経営環境は中国をはじめとする新興国経済の減速、コンシューマー向けIT機器市場の想定以上の成長鈍化、縮小により、異方性導電膜や光学弾性樹脂など主力製品の売り上げは堅調に推移したものの、全体の業績としては厳しいものとなりました。

長期的には、当社のコア技術である材料技術とプロセス技術の組み合わせによって、グローバル市場で認められる付加価値の高い製品の開発を継続的に行っていくことを目指しており、世界規模で「社会に新しい価値を提供する機能性材料企業」と評価されるブランドを確立していきたいと考えています。

当社は、エレクトロニクス分野に加え、今後の成長を牽引する新しい事業領域として、自動車、通信・半導体、環境、ライフサイエンス分野に注力していきます。新規事業の立ち上げには時間がかかるかもしれませんが、近い将来、当社の成長に寄与することはもちろん、社会から必ず必要とされる製品として大きな期待を持って取り組んでいます。

理念とビジョンにもとづくCSRの推進

デクセリアルズの経営理念である「Integrity 誠心 誠意・真摯であれ」という言葉は、CSRの考えにもつながっています。私は、企業として「Integrity」を維持

し続けることこそ当社の社会的責任であり、いかに理念に沿った事業活動を展開していくかを常に考えています。また、この理念をグループ全社で広く共有するため、具体的な「行動規範」にまとめ上げ、さらに行動規範をベースに環境方針や品質方針などを定めています。

一方、企業ビジョン「Value Matters 今までなかったものを。世界の価値になるものを。」は、新しい価値の提供を通じて世の中に貢献しようとする当社の企業姿勢を明文化したものです。具体的には、これまでの事業を通して培った技術とノウハウを最大限に発揮し、価値ある製品の提供をすることで、さまざまな社会課題の解決に貢献していきたいと考えています。

当社の事業が解決できる社会課題

当社にとって、企業ビジョンの実現をささえる事業の柱のひとつになるもの、それが地球環境の保全に有用な製品を生み出すことです。例えば、熱線再帰[※]フィルム「アルビード」は、太陽からの近赤外線（熱線）を上方に反射させ、地表に向かう熱線を低減することでヒートアイランド現象の緩和に資する製品です。事業拡大に寄与することはもちろんですが、人間社会と地球環境の豊かさと質の向上に貢献するという想いからビジネスを展開しています。

[※] 熱線再帰：上方から入射する熱線を上方に反射する機能をさしており、必ずしも光源に向かって反射するわけではありません。



また、当社は石油化学物質を原料とする機能性材料メーカーとして、有限である化学原材料をいかに効率的に使うかを問われています。これに対しても、生産活動において発生する産業廃棄物量を減らすために、毎年、詳細なレビューを通じて課題の把握と対策の実施や進捗状況の確認など、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを行っています。

社会的責任を果たすための組織づくり

企業による不正会計やデータ偽装などの不祥事が報道されています。コンプライアンスとリスクマネジメントは、当社にとっても常に真摯に取り組まなくてはならない側面です。

コンプライアンスでは、なによりも社会に対して

透明性と客観性を持った経営と言葉どおりの行動をする有言実行が重要です。そのうえで、経営理念の「Integrity」に照らし合わせて組織が不正を起こしそうな方向に流れたらそれを正し、万が一起きてしまった場合は確実に報告させ、迅速に改善する。それを愚直に繰り返していくことが、トップにある私の役割であると考えています。

本報告書は、2015年度のデクセリアルズグループの1年間の環境・社会活動をわかりやすくまとめました。一人でも多くのステークホルダーのみなさまにご一読いただけましたら幸いです。

代表取締役社長

一ノ瀬 隆

未来をかたちに。 デクセリアルズの機能性材料。 想像を超える発想と 確かな技術力で、新たな分野へ。

デクセリアルズグループの事業活動

当社グループは、エレクトロニクス分野を中心に最先端の材料開発と生産、プロセス技術の開発に磨きをかけてきました。そこから生まれたユニークな機能性材料は、お客さまのモノづくりに役立つ新たな価値を生み出し続けています。

また、電装化が進む自動車分野やIoT (Internet of Things) の進展をささえる通信・半導体分野などでのビジネスチャンスが生まれてきています。

当社は、エレクトロニクス分野にとどまらず、これまで培った技術を応用し、自動車、通信・半導体、環境、ライフサイエンス分野といった新規事業領域への事業展開を加速してまいります。

目指す企業像

企業ビジョン

Value Matters

今までなかったものを。
世界の価値になるものを。

目指す企業像

高付加価値製品の提供を通じて
人間社会と地球環境の豊かさと
質の向上に貢献する企業

ソニーケミカル会社設立
プリント基板用接着剤
付き銅箔を作る会社として誕生



両面粘着テープ事業へ参入
[タックマスター]を販売開始

1962 1965

磁気ヘッド、
フェライトコア生産開始

1972

熱転写プリンター用
インクリボン生産開始

1985

光ディスク用記録層保護
コーティング材生産開始

1992

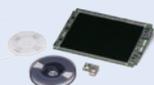
1963

液状接着剤事業へ参入
接着剤「ボンドマスター」を
販売開始



1977

異方性導電膜 (ACF) を
業界にさきがけて製品化



1987

超小型モーター用
「ラミコイル」生産開始



1994

リチウムイオン電池2次保護素子
セルフコントロールプロテクター
(SCP) 生産開始





当社は、お客さまのニーズや課題に応え、卓越した独自の技術を組み合わせることで新しい機能性材料を開発・提供することでお客さまの期待を超える価値を創造することを常に目指しており、その結果として当社の事業成長を実現し、企業価値の向上につながると考えています。

抵抗膜式タッチパネル
生産開始

2001



熱伝導シート
生産開始

2004

ソニーケミカル&
インフォメーションデバイス
に社名変更

2006

デクセリアルズに社名を
変更し事業開始

2012



●東京証券取引所市場第一部上場
●熱線再帰フィルム「アルビート」、
排水処理剤(無機排水用)生産開始

2015

現在に至る

2002

反射防止フィルム、
光ピックアップ用
紫外線硬化型接着剤、生産開始



2007

●ディスプレイパネルの視認性を高める
光学弾性樹脂(SVR)生産開始



●無機偏光版販売開始

2010

新エネルギー分野へ参入
太陽電池用タブ線接合材料
生産開始



2014

医療向けアイシールド材
生産開始

製品の高性能化、小型、薄型化を実現し、

性能や機能、使いやすさの向上に貢献するわたしたちの優れた機能性材料をご紹介します。

接合関連材料



異方性導電膜 (ACF)

樹脂の中に導電粒子を持ち、導通と絶縁の特性を兼ね備えたフィルム型の接合材料です。ディスプレイパネルやカメラモジュールなどの基板の接続に使われています。



汎用両面粘着テープ

粘着剤塗工時に有機溶剤を使用しないUV硬化型製法のグリーンテープシリーズ。曲面追従性、耐静荷重特性に優れ、抜き加工などに適しています。



熱伝導シート

CPUなどのICチップから発生する熱をすばやくヒートシンクに伝え、デバイス性能を守ります。高い熱伝導率と柔軟性を兼ね備えたシリコンタイプ、アクリルタイプに加え、ネットワークサーバーなどの発熱量の大きい用途向けに炭素繊維タイプもラインアップ。



紫外線硬化型接着剤

紫外線照射により、短時間で硬化する、高精度な部品固定、貼り合わせに適した接着剤です。硬化する際の収縮率が小さく、カメラモジュールや光ピクチャーアップ部品の固定などに適しています。



FPC用両面粘着テープ / FPC用ボンディングシート

高い耐熱特性 (Top260℃以上) を持つFPC用両面粘着テープとFPC裏打ち材、補強に適した熱硬化型接着テープ、FPC用ボンディングシートは主にはんだリフロー工程に使われています。



耐衝撃用両面粘着テープ (防水タイプ)

衝撃に強い強力粘着層と弾性のある中空バルーン層をあわせ持つことで、落下時の衝撃を吸収し筐体を守ります。防水性が求められるモバイル機器の窓枠固定や、モジュールと筐体の固定に適しています。

光学関連材料



光学弾性樹脂 (SVR)

スマートフォン、タブレットPCなどのエアギャップを高透過率の弾性を持った樹脂で埋めることで、視認性アップと薄型化を実現します。また、UV硬化時に粘性特性を発現し、作業性に優れた「ハイブリットSVR」を中・小型FPD向けにラインアップ。



無機波長板・無機偏光板

独自のナノレベルプロセス技術により、優れた耐熱性、耐光性、耐久性を実現した光学デバイスです。3000ルーメン以上の高輝度プロジェクターやレーザー光源を使用した光学ユニットなどの信頼性向上に貢献します。

わたしたちの製品はスマートフォンのここに使われています。



導通、絶縁、接着を一括接合
異方性導電膜 (ACF)



FPC接続の強度アップ・ICチップ防湿
紫外線硬化型接着剤



静電気対策、EMC対策
シールド用片面粘着テープ



FPCの裏打ち材料などの
固定用熱硬化接着テープ
FPC用ボンディングシート



はんだリフロー対応、FPC固定
FPC用両面粘着テープ



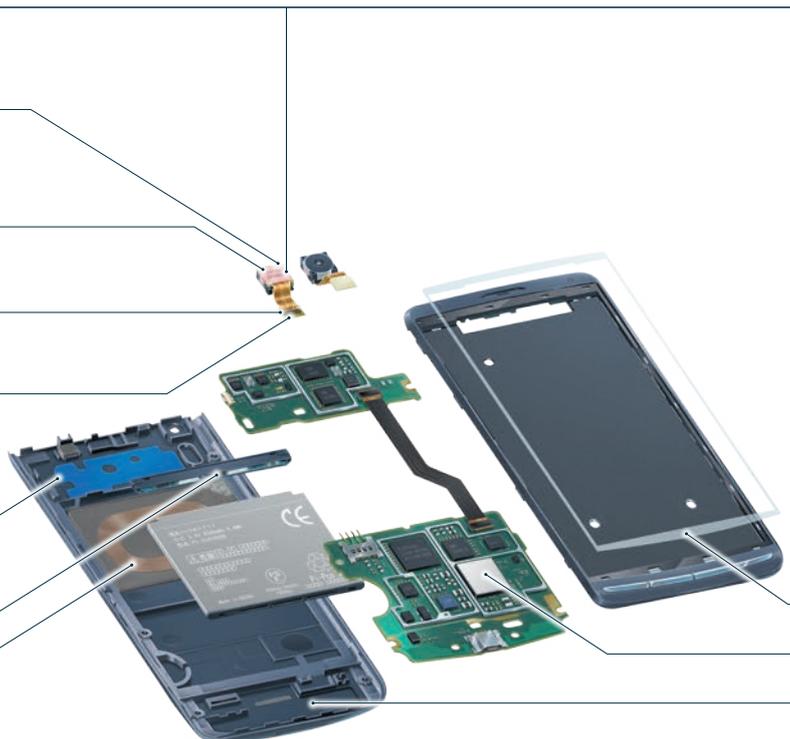
モバイル機器に適した
NFC用アンテナ



表面実装型ヒューズ
**セルフコントロール
プロテクター (SCP)**



薄型で、受電効率の高い
ワイヤレス給電用受電コイル





反射防止フィルム

ナノオーダーの膜厚制御技術と多層構造により、低反射と耐擦傷に優れたDryタイプの反射防止フィルム。エレクトロニクス製品をはじめ、車のクラスタやカーナビゲーションなどの車載ディスプレイの視認性向上に貢献します。また、低反射・高透過に優れた医療向けアイシールド材もラインナップ。



光ディスク用紫外線硬化型樹脂

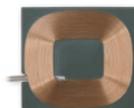
DVD、ブルーレイディスクなどの光ディスクメディア用紫外線硬化型樹脂。記録層を腐食から守る保護コーティングとブルーレイディスクメディアのベース膜、カバー層形成に適しています。

電子部品材料



表面実装型ヒューズ

リチウムイオンバッテリーの過充電、過電流を確実に遮断する2次保護素子のセルフコントロールプロテクター(SCP)に加え、小型・薄型でありながら、過電流から電子機器を守る大電流対応のヒューズ、パワーカレントプロテクター(PCP)をラインアップ。



ワイヤレス給電用受電コイル

自社開発の低損失磁性シートにより、受電効率の高いワイヤレス給電用受電コイルです。薄型かつ柔軟で曲面筐体にも格納でき、モバイル機器のデザイン性を損ないません。Qi規格準拠のワイヤレス充電器や出力電力3W未満の低電力給電品に対応しています。



スパッタリングターゲット

ゲーム機などの高性能半導体ICチップや光ディスクの記録媒体薄膜などに使われる各種金属、酸化物を用いた薄膜形成用スパッタリングターゲット。高密度で均一な組織による高い生産性を実現し、異形状加工技術による長寿命化を可能にします。

環境・新エネルギー材料



熱線再帰フィルム「アルビード」

太陽からの熱線を上方へ反射する新しいタイプの窓用透明遮熱フィルムです。内部の鏡面加工された山形の特殊な反射膜により、近赤外線(熱線)だけを上方に反射させ、地上に向かう熱線を低減し、室内および建物周辺の暑熱環境の改善に貢献します。



排水処理剤(無機排水用)

めっき工場や半導体工場などで排出される無機系排水用の排水処理剤です。植物から得られる水溶性高分子により、優れた凝結・凝集性能を発揮する上、植物の構造がもたらす脱水促進の3つの機能を兼ね備えています。これにより、薬剤使用量と汚泥廃棄量の大幅削減を可能にします。



太陽電池用タブ線接合材料

太陽電池セルとセルで発電した電気を集める金属線(タブ線)を接合するためのフィルムタイプの導電性高分子により、優れた凝結・凝集性能を発揮する上、植物の構造がもたらす脱水促進の3つの機能を兼ね備えています。これにより、薬剤使用量と汚泥廃棄量の大幅削減を可能にします。



優れた低反射性
反射防止フィルム



パネルの薄型化、視認性アップ
光学弾性樹脂(SVR)



優れた耐衝撃性と防水性
耐衝撃用両面粘着テープ
(防水タイプ)



優れた熱伝導率と柔軟性
熱伝導シート



優れた音抜け性
接着機能付スピーカー用
防塵ネット

デクセリアルズの環境対応製品

デクセリアルズは、今まで世になかった環境負荷低減に貢献する技術を開発し、製品化しています。

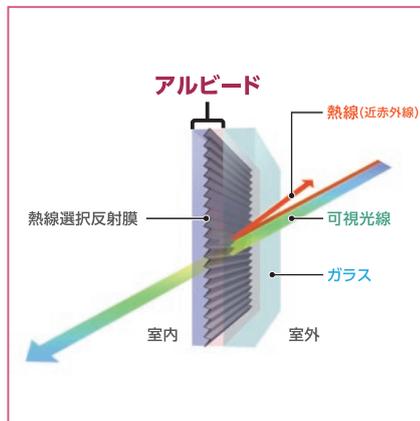
Eco Products 1

熱線再帰フィルム「アルビード」

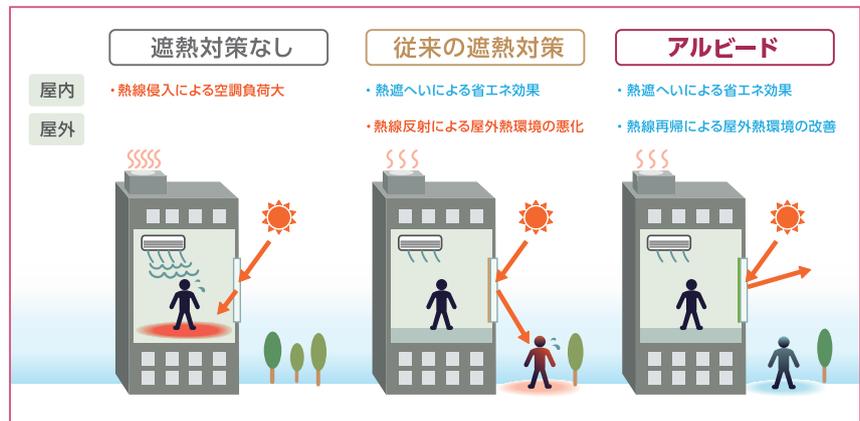
太陽光に含まれる熱線（近赤外線）を天空方向に反射する新しいタイプの透明遮熱窓用フィルム

「アルビード」は、ナノレベルの精度で加工された山形状の熱線選択反射膜により、太陽光に含まれる熱線だけを選択し、地表ではなく上方（天空方向）に反射させます。熱の遮へいにより室内の温度上昇を抑制することで省エネ効果をもたらすと同時に、上方への反射により地表に向かう熱線を減らすことで建物周辺の暑熱環境を改善し、ヒートアイランド現象の緩和に貢献します。

熱線再帰フィルムの仕組み



屋内省エネ効果と屋外熱環境の改善イメージ



環境事業推進室
商品開発5部 商品2課
統括課長 長浜 勉

こだわりぬいたオリジナル技術で社会に貢献

「アルビード」の最大のポイントは、熱線のみを天空方向に跳ね返す機能です。太陽は時間とともに動くので、どの位置にあっても天空へ熱線を跳ね返す反射構造にする必要があります。また、窓に貼るため、可視光線を通して室内を明るくする必要があります。透明性の確保と効率的な熱線反射の両立が大きな課題で、形状と波長選択の設計については、シミュレーションを何度も繰り返し行い、製品化にこぎつけました。

今後も、アルビードの開発で得た知見を活かし、当社が持つさまざまな技術を組み合わせること、今までなかった新しい価値を提供し続けたいと思います。

Voice

Eco Products 2

グリーンテープ G9000 シリーズ

粘着剤塗布工程に環境負荷となる有機溶剤を使わず、紫外線で硬化させる粘着テープ

「グリーンテープ」は粘着剤塗布工程に有機溶剤を使用せず、紫外線硬化型製法で接着層を製造する粘着テープです。曲面追従性・耐衝撃性・リサイクル性など、お客さまのご要望に合わせてさまざまな機能を持つモデルを製品化し、液晶テレビやパソコン、スマートフォン、家電機器、産業用機器に至るまで広範な用途で使われています。また、紫外線硬化型の接着剤も製品化しています。

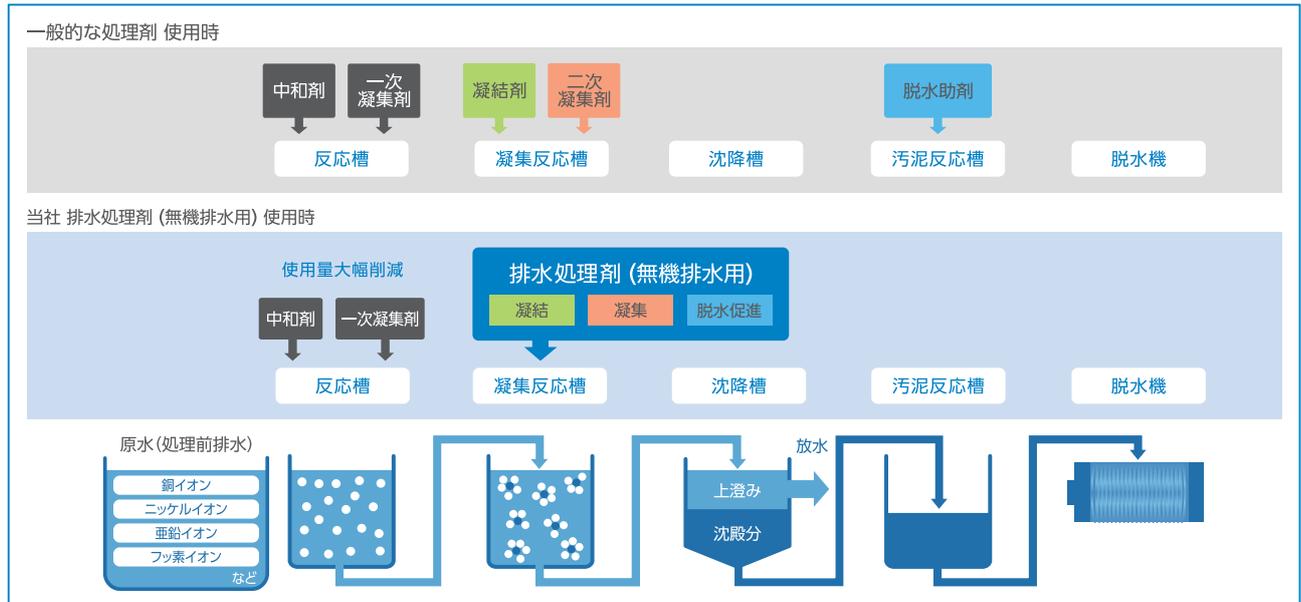


植物の力で凝結・凝集・脱水を促し、汚泥の発生を削減する排水処理剤

金属イオンを含むめっき工場排水やフッ素イオンを含む半導体工場排水などの無機排水用の排水処理剤です。植物から得られる水溶性高分子の特性を活かし、無機排水処理にあたって優れた「凝結」、「凝集」性を発揮することに加え、植物の繊維構造がもたらす「脱水促進」の3つの機能を兼ね備えています。これにより、排水処理における薬剤使用量と廃棄物となる汚泥発生量の削減に貢献します。



排水処理のイメージ



環境事業推進室
排水処理剤ビジネス統括
中塚 美恵子

想像を超える発想と確かな技術力で新たな分野へ

「植物の特性を活かした排水処理剤で、工場排水処理に貢献したい。」

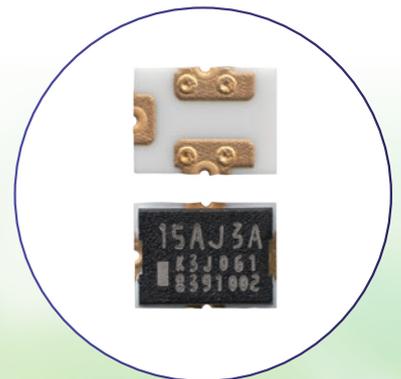
植物の特性を最大限に発現させる配合技術、使い勝手の良い製品形態を実現する粒子制御技術など、デクセリアルズがこれまでエレクトロニクス分野の材料開発で培ってきた要素技術を駆使して、排水処理剤事業という新たな分野へ踏み出しました。当社にとって経験のない、植物材料を採用した排水処理剤の製品化には、さまざまな課題がありましたが、新たな発想での技術開発と実証実験を繰り返し、上市に至りました。

今後、私たち排水処理剤チームが温めているアイデアを形にし、排水処理剤を事業として着実に育てるとともに、まだ世の中にはない新しい価値を持つ機能性材料を生み出し続けることにチャレンジしていきたいと思っています。

Voice

焼却しても有害物質が発生しないハロゲンフリー製品の開発

セルフコントロールプロテクター（SCP）とは、タブレットPCやコードレス電動工具などに搭載されるリチウムイオン電池の過充電や過電流を確実に遮断して製品を保護する「表面実装型ヒューズ」です。従来は、焼却するとダイオキシンが発生するハロゲン化合物を使用したものが主流でしたが、デクセリアルズでは業界に先駆けて2008年よりハロゲン化合物を含まない製品を開発・販売し、現在では全ての製品をハロゲンフリー化しています。



コーポレート・ガバナンス

デクセリアルズグループは、「デクセリアルズグループ行動規範」を遵守し全てのステークホルダーの期待に応え、企業価値を向上させるために、コーポレート・ガバナンスの強化、充実に努めています。

デクセリアルズグループ基本方針

デクセリアルズグループ行動規範

当社グループは、グループ内の全役員、全社員が遵守すべきルールとして、「デクセリアルズグループ行動規範」を定め、コンプライアンスの徹底と健全な事業活動を推進しています。

行動規範は、その基本方針として、当社の経営理念「Integrity 誠心誠意・真摯であれ」の実行、法令・規定の理解と遵守、ステークホルダーへの的確な情報発信と説明責任の遂行、社内通報制度の活用による内部統制の確保を掲げています。さらに、この基本方針にもとづいて、役員および社員が常に遵守すべき具体的な約束事項として、人権尊重、製品・サービスの安全、環境保全、企業情報開示、ハラスメントの禁止、インサイダー取引禁止、反社会的勢力への対応などをはじめとしたさまざまな行動の指針を定めています。

行動規範は、英語、中国語、韓国語に翻訳され、国内外の全グループ会社に適用されています。

行動規範の浸透のための取り組み

コンプライアンスハンドブック

「コンプライアンスハンドブック～わたしたちの約束」は、「デクセリアルズグループ行動規範」の中から、特に事業活動と関係の深いテーマを取り上げ、具体的な事例などを用いて社員向けにわかりやすく解説した小冊子です。

国内・海外を含む当社グループ全社員に配布し、社員

研修などでも活用しています。

コンプライアンス教育

当社は毎年、全社員を対象として、コンプライアンス、インサイダー取引防止、輸出入コンプライアンス、情報セキュリティと個人情報管理、ハラスメント防止などをテーマとしたe-ラーニング研修を実施しています。

また、新入社員、管理職、役員など、役割や階層に応じて必要となるさまざまな法令知識やリスクセンスの習得のため、階層別コンプライアンス研修を実施し、コンプライアンスの理解と行動規範の浸透を図っています。

社内通報制度

当社グループでは、社内と社外(顧問弁護士)の2箇所の社内通報窓口を設け、コンプライアンスリスクの早期発見と、自律的な是正にもとづく健全な事業活動を推進しています。

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

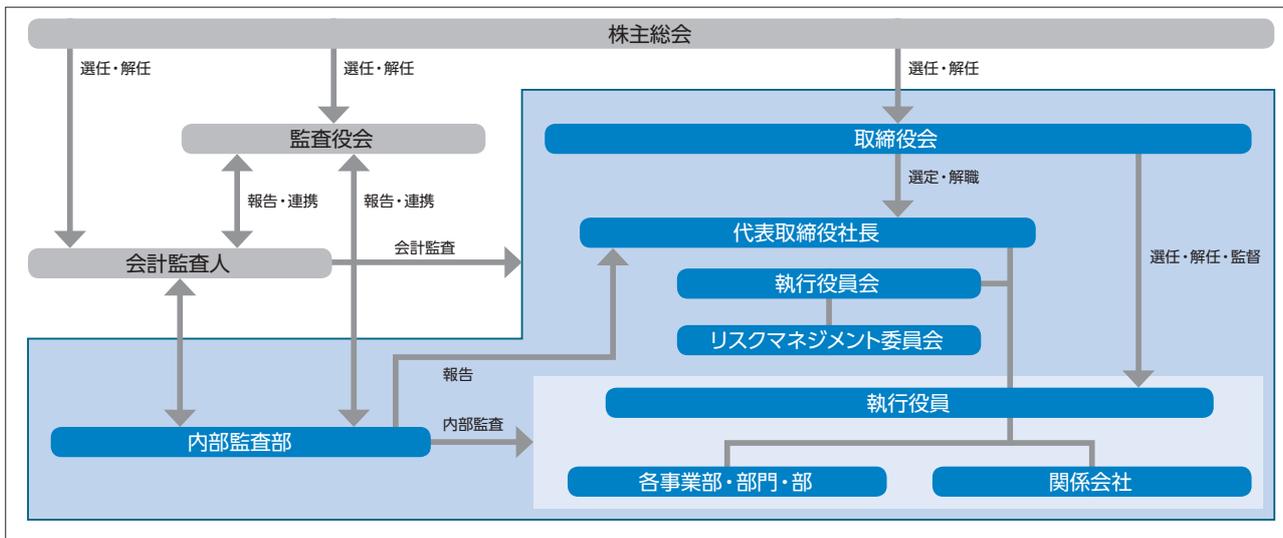
当社は、企業活動をささえている全てのステークホルダーの信頼と期待に応え、企業価値の向上を図るために、コーポレート・ガバナンスの確立が極めて重要な課題であると考えています。

この考えにもとづき、取締役会を独立社外取締役が過半数を占める体制とすることにより、経営の透明性・客観性を確保しています。

◆ デクセリアルズグループ行動規範

1. 基本方針	2. 誠実公正な事業活動	3. 健全な職場環境	4. 資産・情報管理	5. よき企業市民として
<ul style="list-style-type: none">● 経営理念の実行● 法令・規定の遵守● ステークホルダーとの関係● 社内通報の活用	<ul style="list-style-type: none">● 顧客・取引先との信頼関係● 製品の安全● 公正な競争● 公正な調達活動● 輸出入法規の遵守● 贈答・接待の制限● 記録および報告● 個人的利益相反の禁止	<ul style="list-style-type: none">● 自己実現の職場環境● 雇用の機会均等● 健全な労働● ハラスメントの禁止	<ul style="list-style-type: none">● 会社資産の私的使用の禁止● 知的財産● 機密情報の管理● インサイダー取引の禁止● 個人情報● メディアとの関係	<ul style="list-style-type: none">● 環境保全● 化学物質管理● 地域との共存● 安全防災への取り組み● 反社会的勢力への対応

◆コーポレート・ガバナンスの体制図



取締役・取締役会・執行役員

取締役会は、独立社外取締役4名と社内取締役3名の合計7名で構成し、独立社外取締役が過半数を占めています。独立社外取締役は、いずれも経営者、専門家として豊富な経験や高い見識を持っており、独立した立場から監督機能を果たしています。

業務執行は、執行役員9名を選任して権限の委譲を行っています。このような体制により、監督機能と業務執行との分離、経営の透明性の向上、経営責任の明確化、意思決定の迅速化を図っています。

監査役・監査役会

監査役会は、独立社外監査役3名で構成することで、透明性を確保するとともに、経営に対する監査機能を果たしています。

監査役は、代表取締役との意見交換、重要な会議への出席、重要書類の閲覧、重要な財産の調査、事業部門へのヒアリング、子会社調査などを行うとともに、内部監査部、会計監査人との連携をとりながら、監査の実効性、効率性を高めています。

内部監査

内部監査部は、当社および当社グループ会社に対して、内部統制システムの整備、コンプライアンス、リスク管理体制の遵守、整備状況の監査を行っています。内部監査の結果については、改善状況を定期的に確認し、その内容を代

表取締役社長、監査役および関係部署に報告しています。

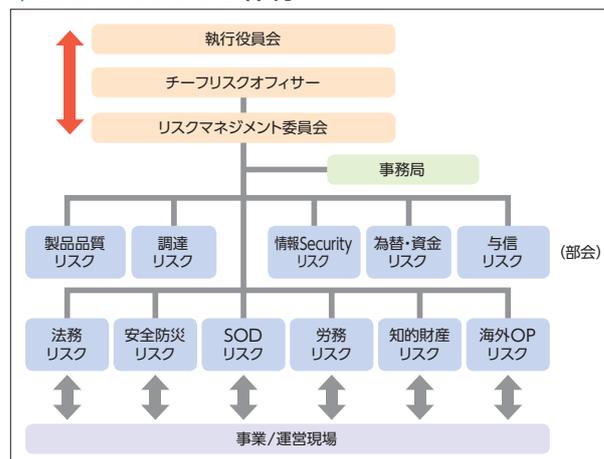
会計監査

会計監査については、PwCあらた有限責任監査法人と監査契約を締結し、会社法および金融商品取引法にもとづく監査を実施しています。

リスクマネジメント

当社グループの事業目的および損益目標を達成するために、事業に関連する社内外のリスクを適切に把握しリスク評価および対策を行うとともに、リスク対策の実施状況を評価しその改善を行っています。状況は毎月執行役員会に報告しています。

◆リスクマネジメント体制



環境理念と基本方針

デクセリアルズグループの環境活動は、企業ビジョンのもと「環境理念」と「基本方針」を定め、ISO認証取得の主旨とプロセスに沿って推進しています。

環境理念

当社グループは、企業ビジョン「Value Matters 今までなかったものを。世界の価値になるものを。」のもと、地球上のあらゆる生態系と社会、および会社の持続性を確保する環境配慮と資源循環の視点に立ち、新たな価値につながる事業と環境保全活動を展開していきます。

基本方針

当社グループは環境経営を推進し、社員一人ひとりが技術と能力を駆使してその達成に取り組み、全ての業務領域において計画的目標達成と継続的改善を重ねて、社会から尊敬され、信頼される会社であり続けます。

1. 環境事業に積極的に参入し、環境配慮型製品を継続的に開発して提供します。
2. エネルギーや資源を有効に活用し、生産性向上と循環型オペレーションを展開します。
3. 環境リスクの低減活動と化学物質のフロー管理を着実に実行し、汚染予防に努めます。

4. 国内外の環境保全に関する法律、条例、規制などを把握して、これを遵守します。
5. 実務、教育、広報を通じて、環境意識と専門性の向上、人材の育成につなげます。
6. 社会や地域の一員としての環境保全と連携、およびコミュニケーション活動を推進します。
7. 活動の推進体制、交流・共有と活性化、マネジメントシステムの維持向上に努めます。

※環境経営とは

- ① 地球上のあらゆる生態系および社会の持続性を確保するために、
- ② 循環の視点に立ち、
- ③ 資源量・廃棄場所・自浄能力という地球の有限性を考慮し、
- ④ 企業収益と環境保全とを両立させながら、
- ⑤ 自社にとっての持続性を確保するために行う経営の諸活動である。

(立山裕二(2009年)『利益を生み出す「環境経営」のすすめ』総合法令出版P.3)



本報告書に掲載されている環境理念、基本方針をはじめとしたCSR・環境活動に関する情報は、当社ホームページでも開示しています。本報告書のPDF版もこちらでダウンロードが可能です。併せてご利用ください。

<http://www.dexerials.jp/csr/>

環境マネジメント体制/環境監査体制

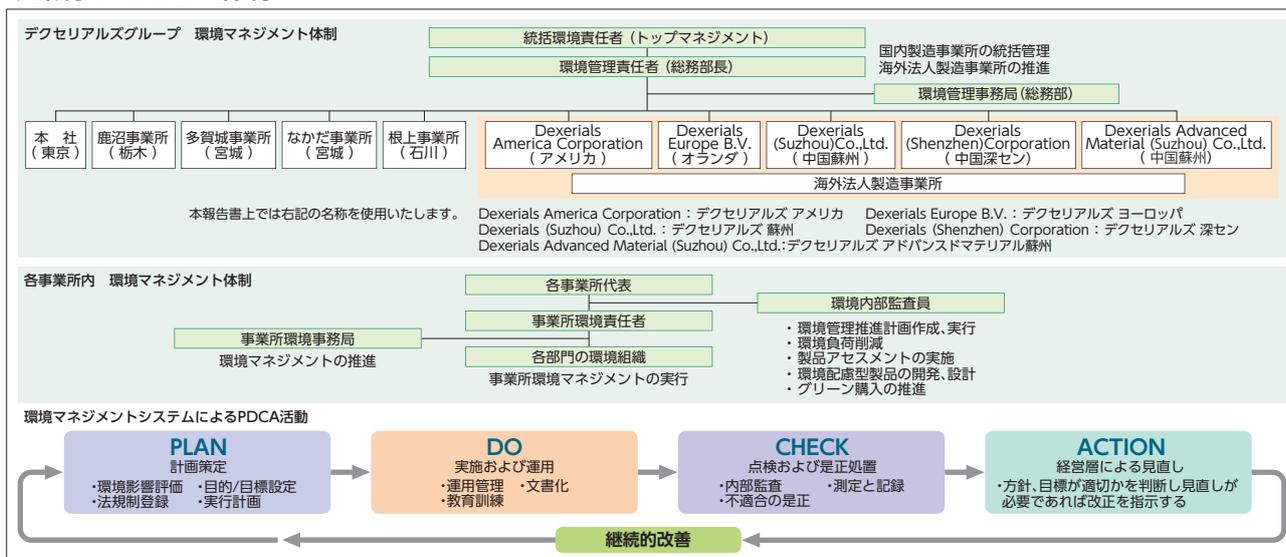
デクセリアルズグループは、「環境基本方針」のもと、全社体制で環境活動に取り組んでおり、その活動は内部監査や、第三者機関が行う外部監査によって確認しています。

環境マネジメント体制

デクセリアルズグループは、「環境基本方針」のもと、国内外の全事業所を包括する環境マネジメントシステムを構築し、外部認証機関BV(ビューローベリタス)によるマネジメントシステム適合状況の審査後、認証を取得しました。

た。このシステムにもとづいて環境管理責任者が各事業所を統括・管理し、全社体制で環境活動に取り組んでいます。各事業所には事業所ごとの取り扱い製品の違い、設備の実状に合った環境活動を効果的に展開するために各環境事務局が専門性を活かし、事業所間を横断した活動を推進しています。

◆環境マネジメント体制



環境監査体制

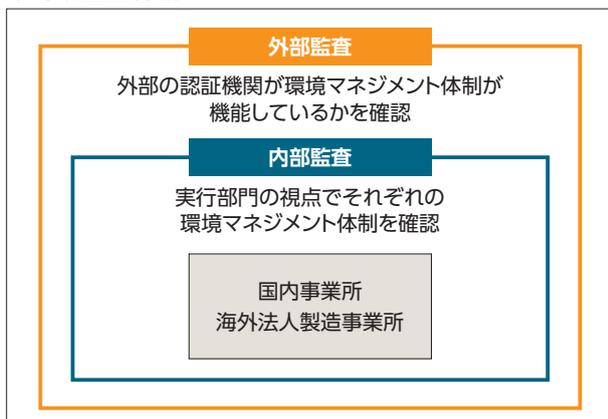
外部監査

外部の認証機関が行う監査。
 3年に1回の更新審査および毎年の維持審査を行い、環境マネジメント体制が機能しているかを第三者の視点で確認しています。

内部監査

グループ内の事業所が自らの組織について毎年実施する監査。
 事業所が作成した環境に関する手順などの遵守状況、環境パフォーマンス、および遵法性について、現場の視点で確認しています。

◆環境監査体制



ISO14001 認証取得

デクセリアルズグループは、新会社設立に際して、新たにISO14001の認証取得をすすめ、国内5拠点、海外4拠点で認証を取得しました。

会社名	製造事業所名	初回認証取得年月	有効期限
デクセリアルズ株式会社	本社	2013年1月	2018年9月14日
	鹿沼事業所		
	多賀城事業所		
	なかだ事業所		
	根上事業所		
デクセリアルズ連結子会社			
Dexerials Europe B.V.		2013年1月	2018年9月14日
Dexerials (Suzhou) Co.,Ltd		2013年1月	2018年9月15日
Dexerials (Shenzhen) Corporation		2013年5月	2019年5月1日
Dexerials Advanced Material (Suzhou) Co.,Ltd		2016年1月	2018年9月15日

環境負荷の全体像

環境負荷低減のため代替エネルギーへの切りかえや省エネ活動を行っています。

環境負荷の全体像

デクセリアルズグループは、事業活動を継続していく上で多くのエネルギー、水、化学物質を使用し、環境負荷となるCO₂、廃棄物、水を排出しています。

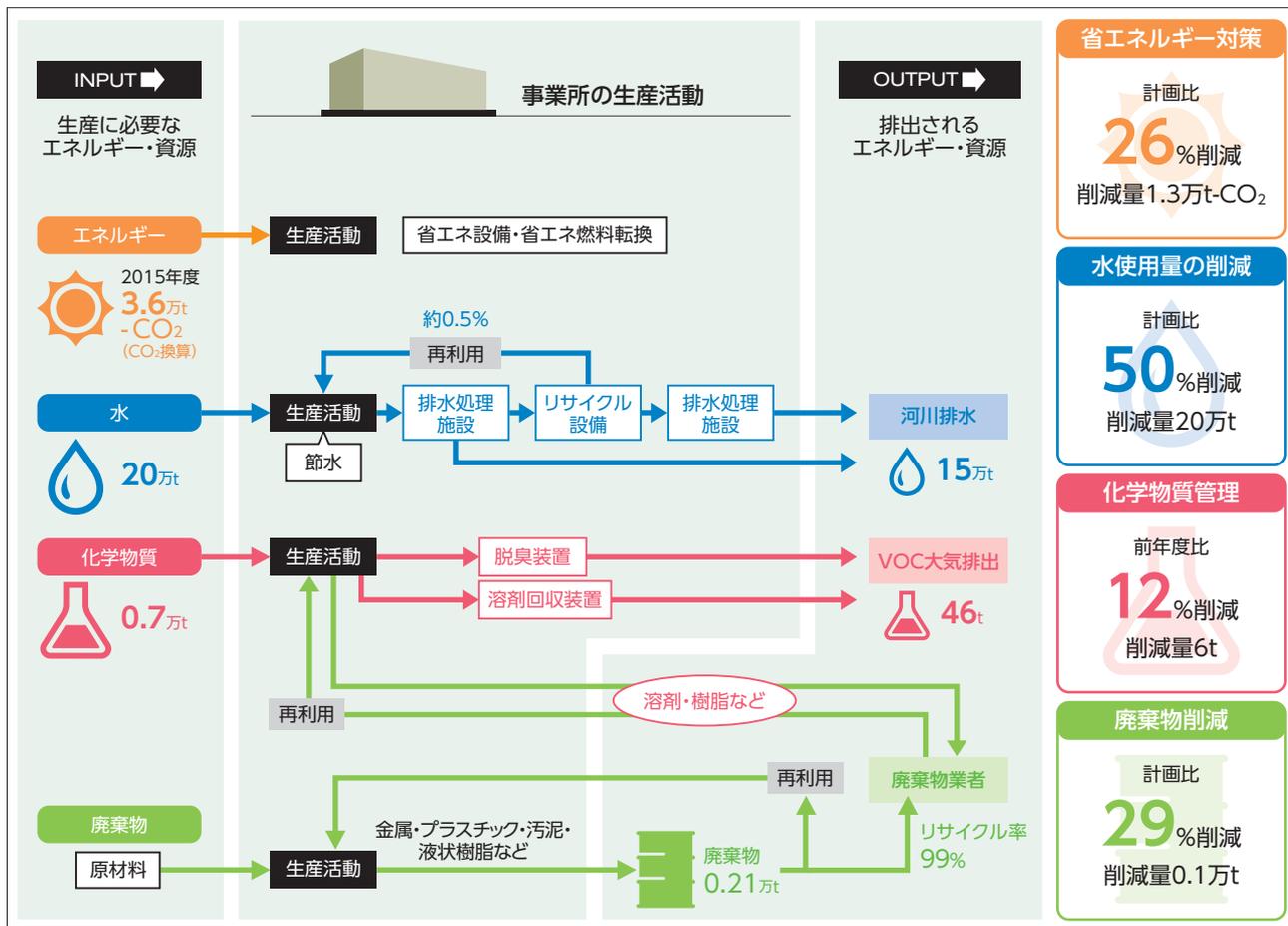
その中で環境負荷の少ない代替エネルギーへの切りかえや省エネ改善活動によってCO₂排出量を抑え、水使用量や廃棄物発生量の削減とリサイクルを進め、化学物質

の使用量削減や大気への排出量削減を実施し、環境保全に取り組んでいます。

生産活動全体の環境側面(INPUT/OUTPUT)における環境負荷を把握し、環境影響評価を行って削減目標を掲げ、環境負荷低減活動を展開しています。

2015年度は、179件のテーマでエネルギー量、水使用量、廃棄物量/有価物量、化学物質質量などの改善を行い、環境負荷の低減に貢献しました。

◆環境負荷の全体像と2015年度の環境負荷低減活動実績



※ VOC: Volatile Organic Compounds 揮発性有機化学物
 ※ 排出抑制の施策を実施し、法的排出基準を遵守すべく実績を管理しています。

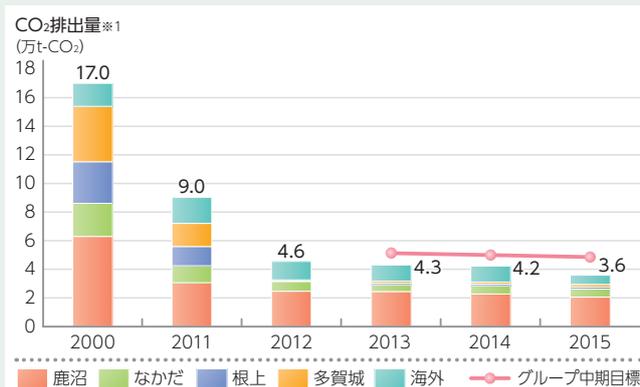
温室効果ガス(CO₂)排出量の削減(省エネルギー)

温室効果ガス排出量の推移

26%削減 削減量1.3万t-CO₂
(2015年度計画比)

地球環境や生態系に深刻な影響をおよぼすといわれる地球温暖化。その原因とされる温室効果ガスのうち、CO₂は省エネルギー活動によって人為的に削減することが可能です。デクセリアルズグループは、省エネルギー対策を環境保全活動の最重要課題として取り組んでいます。

- クリーンルームの休日の空調運転見直しによる電力削減
- モーターのインバーター化 など



※1 2011年度は、ソニーケミカル&インフォメーションデバイスグループ(当時)の実績値。
2012年度は、上期:ソニーケミカル&インフォメーションデバイスのケミカル関連事業、下期:デクセリアルズグループの実績値です。

主な施策

鹿沼第1工場、3号館の脱臭装置のインバーター化

3号館は、液状接着剤を混合する生産工程がある建屋です。液状接着剤を混合する生産工程では、多くの有機溶剤を使うため、その有機溶剤を含む排気を脱臭装置で取り除く必要があります。従来この脱臭装置を24時間、一定の能力で稼働させていましたが、省エネに配慮し、有機溶剤の排気量に合わせて稼働させるために、電動機のインバーター化を行い、19.8万kwh(72t-CO₂)のエネルギー削減を実施しました。



脱臭装置(集塵機)

社外からの表彰/関東経済産業局長賞(省エネ)

2016年2月18日、平成27年度関東地区省エネルギー月間の表彰式で、鹿沼第2工場がエネルギー管理優良事業者として「関東経済産業局長賞」を受賞しました。関東経済産業局は、毎年2月の「省エネルギー月間」にあわせて、省エネルギーの一層の普及促進を図るため、省エネルギーへの貢献が顕著であった優良事業者や功績者をそれぞれ「エネルギー管理優良事業者」および「エネルギー管理功績者」として表彰しています。当社は前身のソニーケミカル&インフォメーションデバイス(株)として平成23年度にも同賞を受賞しており、デクセリアルズとしては初めての受賞です。当社では、継続的にエネルギー使用量削減に取り組んでいることに加えて、今回は鹿沼第2工場で行った改善施策が評価され、受賞となりました。



表彰を受ける石黒執行役員と表彰状と楯

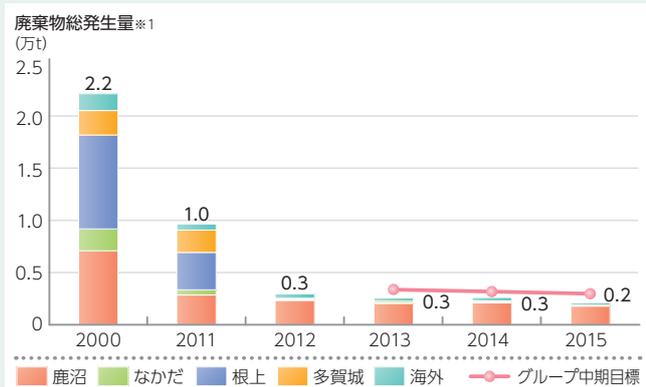
廃棄物の削減(総発生量削減、リサイクル率の向上)

廃棄物発生量の推移

削減率**29%** 削減量**0.1**万t
(2015年度計画比)

デクセリアルズグループは、廃棄物発生量削減および廃棄物の有効利用に積極的に取り組み、リサイクル率はグループ全体で99%を達成しています。製品歩留りを上げて廃材の発生量を抑える一方、発生する廃材や生産工程で発生した廃溶剤・酸やアルカリ廃液・プラスチック破材・金属屑・木屑などは各事業所の事業形態に合った分別回収を行い、効率的な3R(リデュース・リユース・リサイクル)に取り組んでいます。

- 廃プラ有価物の拡大
- 使用済容器の減容化 など



※1 2011年度は、ソニーケミカル&インフォメーションデバイスグループ(当時)の実績値。
2012年度は、上期:ソニーケミカル&インフォメーションデバイスのケミカル関連事業、下期:デクセリアルズグループの実績値です。

主な施策

RPFリサイクル(固形燃料化)へ資源の有効活用

国内全事業所およびデクセリアル蘇州、デクセリアルヨーロッパでは、生産工程で発生する端材となったプラスチックフィルムを粘着材が付いたものと付いていないものに分類し、粘着材が付いていないものは有価物として処理しています。粘着材が付いたプラスチックフィルムは、産業廃棄物として排出したあとRPF※リサイクルを行い資源の有効利用を図っています。

のに分類し、粘着材が付いていないものは有価物として処理しています。粘着材が付いたプラスチックフィルムは、産業廃棄物として排出したあとRPF※リサイクルを行い資源の有効利用を図っています。

※ RPF:産業系廃棄物でマテリアルリサイクルが困難な古紙およびプラスチックを原料とした高カロリーの固形燃料

◆ 廃プラスチックフィルムの分別リサイクル

粘着材が付着していない廃プラスチックフィルム
→ 有価物



粘着材が付着した廃プラスチックフィルム
→ 産業廃棄物



↓ 産廃処理



燃料として利用

水使用量の削減(節水、水のリサイクル)

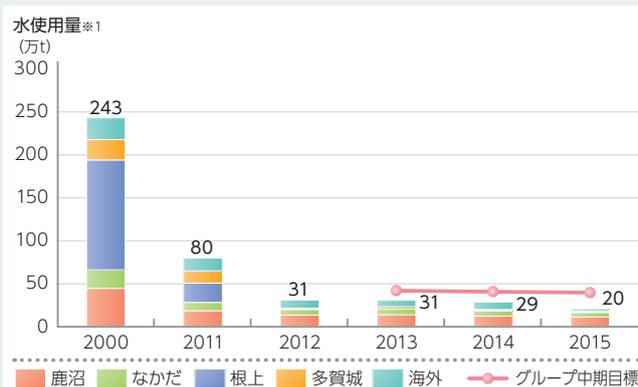
水使用量の推移

削減率**50%** 削減量**20万t**
(2015年度計画比)

当社グループは、製造工程の改善により水の使用量を減らし、一度使用した水をリサイクルによって繰り返し使用するとともに、その過程において水漏れ管理を徹底しています。

また、トイレなど生活水の節水を社員に呼びかけ、水の有効利用の意識を高めています。

- 純粋使用量の削減
- 節水型便器の導入 など



※1 2011年度は、ソニーケミカル&インフォメーションデバイスグループ(当時)の実績値。
2012年度は、上期:ソニーケミカル&インフォメーションデバイスのケミカル関連事業、下期:デクセリアルズグループの実績値です。

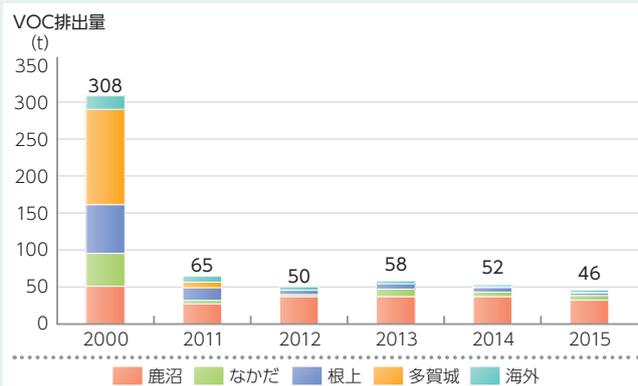
VOC※1排出量の削減

VOC排出量の推移

削減率**12%** 削減量**6t**
(前年度比)

当社グループは、排気ガス除害処理システムの導入、対象物質の工程改善や代替物質の検討、有機溶剤の使用量削減などの施策を実施して大気汚染防止法のVOC排出基準を遵守しています。

- 洗浄溶剤の削減
- 洗浄溶剤の再利用 など



※1 VOC: Volatile Organic Compounds 揮発性有機化合物
※2 2011年度は、ソニーケミカル&インフォメーションデバイスグループ(当時)の実績値。
2012年度は、上期:ソニーケミカル&インフォメーションデバイスのケミカル関連事業、下期:デクセリアルズグループの実績値です。

法規制遵守

デクセリアルズグループは環境関連の法規制を遵守しています。

2015年度の法規制遵守状況

当社グループは、国内外事業所の大気汚染、水質汚染など環境関連の法規制や条例などが適用される項目について、自主基準値を設けて管理しています。

騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法も、敷地境界での規制値を超過しないよう対策を施し、自主基準値を設け維持管理しています。

※ 多賀城事業所、根上事業所は、賃借事業所であり、管理対象外となっています。
 ※ なお、海外法人、製造事業所においても各国の法規制や条例などを遵守しています。

国内事業所

鹿沼事業所

項目	単位	法定基準	自主基準	測定値	
大気汚染防止法	煤塵	g/Nm ³	<0.3	<0.15	0.005(0.005)
	窒素酸化物	ppm	<180	<115	44(76)
	硫黄酸化物	—	<8(K値)	<4	0.1(0.4)
	VOC	ppmC	<1400	<700	122(430)

項目	単位	鹿沼 第1工場			鹿沼 第2工場		
		法定基準	自主基準	測定値	法定基準	自主基準	測定値
水素イオン濃度(pH)	—	5.8~8.6	6.6~8.1	7.3(7.7)	5.8~8.6	6.9~8.3	7.8(8.1)
BOD ^{※1}	mg/l	<20	<15.3	4.3(13.0)	<8	<6.5	2.3(5.5)
COD ^{※2}	mg/l	<20	<10.2	3.3(9.9)	<20	<10.0	2.4(5.7)
SS ^{※3}	mg/l	<40	<20.0	1.7(3.8)	<40	<20.0	1.1(2.0)
Nヘキサン(鉱油類)	mg/l	<5	<2.5	<1.0(<1.0)	<5	<2.5	<1.0(<1.0)
銅	mg/l	<3	<1.5	0.1(0.3)	<3	<1.5	0.1(0.1)
鉄	mg/l	<3	<1.5	0.1(0.2)	<3	<1.5	0.1(0.2)
大腸菌	mg/l	<3000	<1500	0.1(1.0)	<3000	<1500	17.0(180.0)
総窒素	mg/l	<60	<30.0	7.8(22.0)	<60	<30.0	6.5(9.0)
総りん	mg/l	<8	<4.0	0.1(1.6)	<8	<4.0	0.6(2.1)

項目	条例基準(敷地境界)	測定値	
悪臭防止法	臭気指数	18	<10(<10)
	臭気強度	—	—

時間	単位	条例基準	測定値	
騒音規制法	6:00~8:00	dB	70	49(61)
	8:00~18:00	dB	75	54(60)
	18:00~22:00	dB	70	48(53)
	22:00~6:00	dB	60	49(58)

時間	単位	条例基準	測定値	
振動規制法	8:00~20:00	dB	65	34(40)
	20:00~8:00	dB	60	31(34)

なかだ事業所

項目	単位	法定基準	自主基準	測定値	
大気汚染防止法	煤塵	g/Nm ³	<0.3	<0.03	0.004(0.006)
	窒素酸化物	ppm	—	<90	67(88)
	硫黄酸化物	(K値)	<1.26	<0.126	0.04(0.07)

項目	単位	条例基準	自主基準	測定値	
下水道法	水素イオン濃度(pH)	—	5.8~8.6	6.1~8.3	7.8(7.9)
	BOD	mg/l	<300	<90	9.7(26.0)
	SS	mg/l	<300	<200	8.9(13.0)
	Nヘキサン(鉱油類)	mg/l	<5	<1.5	<1.0(<1.0)
	Nヘキサン(動植物油脂類)	mg/l	<30	<9	<1.0(<1.0)

項目	協定基準	測定値	
悪臭防止法	臭気指数	—	—
	臭気強度	1.8	0.9(0.9)

時間	単位	協定基準	測定値	
騒音規制法	6:00~8:00	dB	50	49(49)
	8:00~18:00	dB	55	50(52)
	18:00~22:00	dB	50	49(50)
	22:00~6:00	dB	45	45(45)

時間	単位	協定基準	測定値	
振動規制法	8:00~20:00	dB	60	29(29)
	20:00~8:00	dB	55	30(30)

海外事業所

デクセリアルズ蘇州

項目	単位	法定基準	自主基準	測定値	
大気汚染防止法	TVOC ^{※4}	kg/h	<1.8	<1.8	0.002

項目	単位	条例基準	測定値	
環境騒音汚染防止法	6:00~22:00	dB	65	56(64)
	22:00~6:00	dB	55	50(54)

デクセリアルズ アドバンスド マテリアル蘇州

項目	単位	法定基準	自主基準	測定値	
大気汚染防止法	エタノール	kg/h	<30	<30	0.0004

時間	単位	条例基準	測定値	
環境騒音汚染防止法	6:00~22:00	dB	65	57(60)
	22:00~6:00	dB	55	50(52)

測定値:実績平均値()内は最大値

※1 BOD:生物化学的酸素要求量

※2 COD:化学的酸素要求量

※3 SS:浮遊物質量

※4 TVOC:Total Volatile Organic Compounds(総揮発性有機化合物)

化学物質管理

REACH規則への対応

当社グループは、化学物質の安全性評価の推進を目的とした欧州のREACH規則※1への対応を進めています。

REACH規則によって定められた特定の物質(高懸念物質:SVHC物質)を規定含有量以上含む場合には、顧客への情報伝達や欧州化学品庁への届出などが求められます。

混合物※2については、当社の欧州現地法人であるデクセリアルズヨーロッパと連携してREACHへの登録が必要となる化学物質の調査を行い、予備登録を完了して、Substance Information Exchange Forum (SIEF)を通じて本登録が進められています。また、特定の物質については当社グループが定めた調査方法で調達先からの回答を入手し、その結果にもとづき特定の物質の含有・非含有を判断しています。

化学物質リスクを最小化するために

当社グループでは、化学物質に関する製品コンプライアンスの維持ならびにお客さまへ将来にわたって安心・安全な製品提供・事業所環境を維持継続するために、化学物質適正管理委員会を組織して社内で使用する化学物質を適正かつ一元的に管理する体制を確立しています。

事業活動の中では本委員会を通じて、化学物質の使用管理はもとより、近年の国内および海外諸国における化学物質関連法規制改正への確に対応すべく、原材料購入から製品の設計・製造・物流・輸出入に関して、法規制面での確認・対応を行っています。

また、化学物質は環境や健康に影響をおよぼすリスクがあるため、取り扱いにあたっては導入される全ての化学物質についてデクセリアルズクラス分類およびリスク評価を行い、使用管理を強化して対応しています。

◆化学物質適正管理委員会



デクセリアルズクラス分類

クラス1:原則使用禁止

クラス2:自主リスクアセスメントの実施および申請物質のリスクに応じた管理方法および管理状況の確認結果により使用許可

クラス3:自主リスクアセスメントの実施および管理方法申告内容の確認によって使用許可

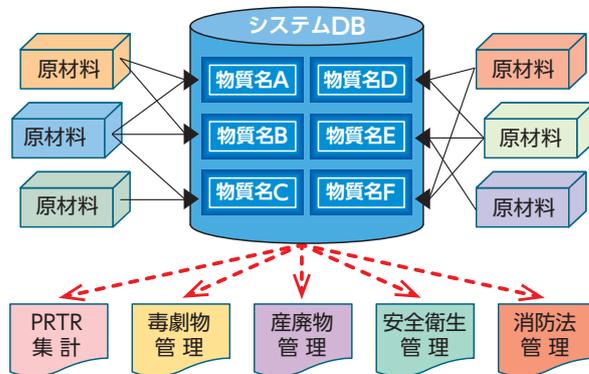
クラス4:購入実績把握

化学物質総合管理システムの導入

当社グループでは購入した原材料・薬品を化学物質単位でデータベース登録し、必要に応じて集計項目ごとにデータを出力することができる管理システムを導入しています。

事業所や事業部門単位で化学物質使用状況調査に幅広く活用できるシステムで、適用法規制改正に対応し、コンプライアンス違反防止に努めています。

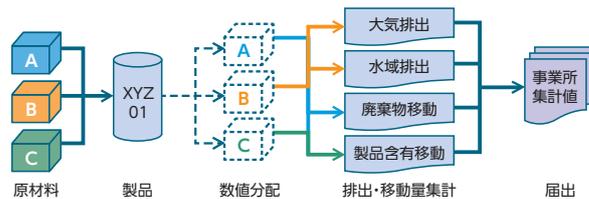
◆化学物質総合管理システム



PRTR/算出の手順

購入実績値の分配係数を用いて排出・移動量に振り分ける方法を採用しています。

◆PRTR/算出の手順



※1 REACH:Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicalsの略。2007年6月1日発効。

※2 混合物:2種類以上の化学物質を混合した物のことで、当社の製品では、液状の接着剤、熱硬化性の接着フィルムなどが該当。

地域社会に貢献する環境活動

デクセリアルズグループは地域社会の一員として、環境に配慮した取り組みを国内外の事業所で行っています。

地域社会の健全な緑を取り戻す活動

デクセリアルズは自治体やNPO法人と協力して次世代に残る森づくりに取り組んでいます。

林野庁が推進する“企業の森づくり”活動

デクセリアルズは、“創造の森”と名づけた栃木県の矢板市、さくら市、鹿沼市の合計3ヶ所で自治体などと5年間の協定を結び、各々が目指す森づくりを行っています。

矢板市“創造の森”（2016年3月をもって協定終了）



5年経過し成長した森



鹿食害防止柵の撤去作業

さくら市“創造の森”



間伐作業



作業後の日がさす森

鹿沼市“希望と創造の森”



毎月1回の作業デー



道の落ち葉を集めています

この“企業の森づくり”活動に対して、栃木県よりとちぎカーボンオフセット証書(合計94.47t-CO₂)が発行されました。



矢板“創造の森”
4.68t-CO₂



さくら市“創造の森”
58.79t-CO₂



鹿沼市“希望と創造の森”
31.00t-CO₂

足尾に緑を取り戻す活動

2009年より“NPO法人足尾に緑を育てる会”が提唱する“足尾の山に100万本の木を植える”趣旨に賛同し、育苗、植樹、草刈、間伐など森づくりをお手伝いしています。

- 足尾の森林の復旧は約100年前から続けられていますが、森に回復した場所はまだまだわずかです。森を取り戻すには多くの人々の継続的な活動が必要です。当社グループはさまざまな面からこの活動を支援しています。



大畑沢(25年前)



(近年)

- 2015年4月25,26日に関東各地から約1,700名が参加した「春の植樹デー」では、主催者スタッフとしてイベント遂行のお手伝いをしました。



とん汁配膳



植樹風景

- 荒れてしまった山への植林には良い土が必要です。事業所や“創造の森”で集めた落ち葉、枯れ草、間伐チップを提供し、土づくりに役立っています。



デクセリアルズから提供した落ち葉は足尾で“土”となります。



環境に配慮した取り組み

当社グループでは国内外の事業所にて社員一人ひとりが環境に配慮した取り組みを行っています。

デクセリアルズアメリカでのマイカップ使用

デクセリアルズアメリカでは社員に個々のマグカップを配布し、これまで使い捨てで消費していた紙コップを廃止することで、不要なごみを出さない取り組みを行っています。

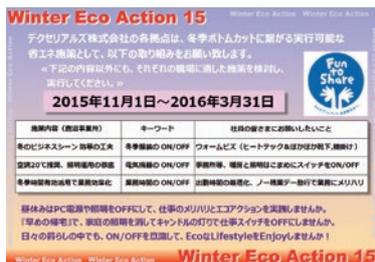


クールビズ/ウォームビズ

当社では、6月から10月にかけて「Summer Eco Action」と銘打ち、クールビズ運動を実施しています。また、11月から3月にかけては「Winter Eco Action」としウォームビズを行い、服装の工夫、空調や照明を省エネ運転にし、出勤時間の最適化や定時退社日の設定を行い電力削減に努めています。



クールビズ



ウォームビズ

社内写真コンテスト

当社では、社員の環境、ダイバーシティ、生物多様性の保全、地域との関わりなどへの関心を高めることを目的として、自然・家族などをテーマとした写真コンテストを行っています。



「最優秀賞」



「優秀賞」



「優秀賞」



「社長賞」

環境配慮型自販機(株式会社アペックス)の設置 間伐材を使用した紙コップの利用

当社で使用しているアペックスの紙コップは、間伐材を10%配合した100%国産材から作られています。間伐材を計画的に使用することで国内の林業に貢献し、健康な森の育成に寄与することができます。また、飲料後は専用回収器にて回収し、地域ごとに提携している製紙工場にてトイレットペーパーなどへリサイクルされます。

環境に配慮したコーヒー豆の使用

当社に設置している自販機のメニューにある「ブラジルブレンド」を飲むことで、野生生物の保護、土壌と水源の保全、労働者とその家族および地域社会の保護、生計の向上などを目指す「レインフォレスト・アライアンス」の認定を受けたイパネマ農園豆(30%)の消費に貢献できます。



労働安全衛生・防災

デクセリアルズグループは、事業に重大な影響を与える可能性のある災害や事故の未然防止、または被害を最小限にするための社員教育や設備の補強・改善を計画的に実施しています。

安全衛生防災理念

デクセリアルズグループは「安全が新たな価値と質の向上に不可欠なものと認識し安全で健康的な事業の場、モノづくりの場であり続けること」を安全衛生防災理念としています。

安全衛生防災基本方針

安全衛生防災理念をもとに、全ての業務領域において現場における安全風土の底上げと重大な災害を防ぐため、自律と連携、3現主義『現場・現物・現実』を重視し「Safety FIRST Action」と名づけた安全防災活動を推進しています。

◆安全防災の取組み



事業継続計画(BCP)活動

災害発生などの有事の際、製品ごとに復旧・再開方法を取り決め、危機管理能力と事業継続力の向上を図っています。想定外の事態が起きない体制作りを目指し取り組んでいます。

安全衛生防災活動紹介

ヒューマンエラーによる災害、機械設備の不具合による災害、化学物質による健康障害、交通事故、火災などのさまざまな災害を未然に防止することを重点課題とし、安全衛生防災活動に取り組んでいます。



機械設備安全チェック



爆発体験

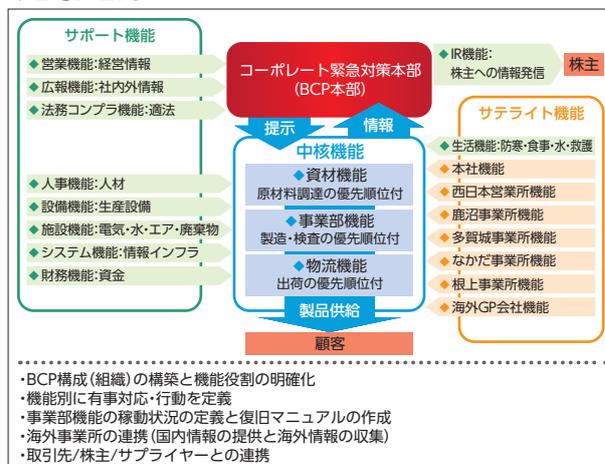


交通事故体験



消火訓練

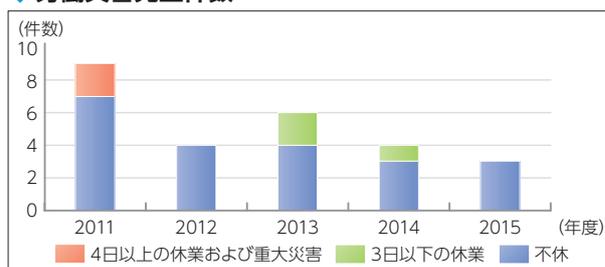
◆BCP活動



労働災害発生状況

2015年度の休業労働災害は0件、不休業災害は3件発生しました。当社では、発生した災害の危険リスクを顕在化することを目的として原因の調査、分析、改善を進め、全社で情報を共有し、再発防止に努めています。2016年度も重大災害の防止とともに職場における危険・健康被害などのリスク抽出と低減活動、および安全職場風土向上に取り組んでまいります。

◆労働災害発生件数



設備の災害リスク対策

観測井戸の設置

鹿沼事業所、なかだ事業所では、地下タンクからの重油、灯油、溶剤などの漏れを感知するた



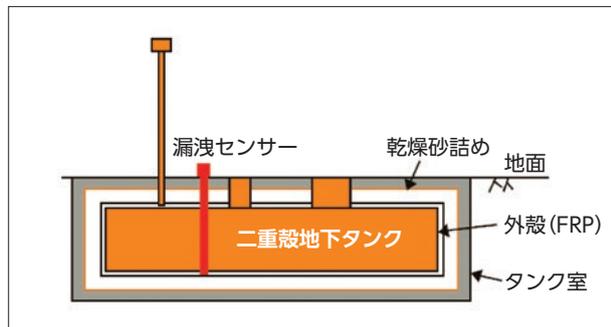
地下水pH自動観測井戸

めの観測井戸を地下水の流れに沿って効果的な測定ができる最適な場所に設置しています。

タンクのリスク対策

鹿沼事業所、なかだ事業所では、老朽化した地下タンクなどからの漏洩防止のため、地下タンクやボイラー排水中和槽などを二重化する、あるいは地上に設置するなどの対策を実施しています。

◆地下タンクの二重殻化の概要

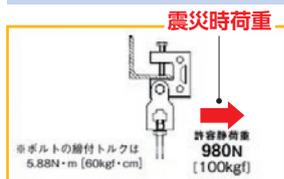


◆漏洩防止耐震補強工事例

吊り金具の固定改善例

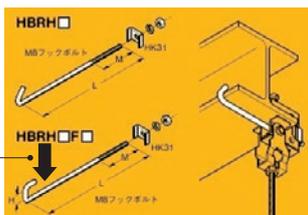
配管やダクトの吊り金具は従来、梁の片側にしか挟んでいなかったため、地震で外れる可能性がありました。改善後は、吊り金具を梁の両側から挟み固定することで大きな揺れでも脱落しないよう耐震補強を行いました。

吊り金具



補強金具を取付けH鋼材と一体化脱落防止を行う

通常時の荷重



落下防止部材を使用した補強例

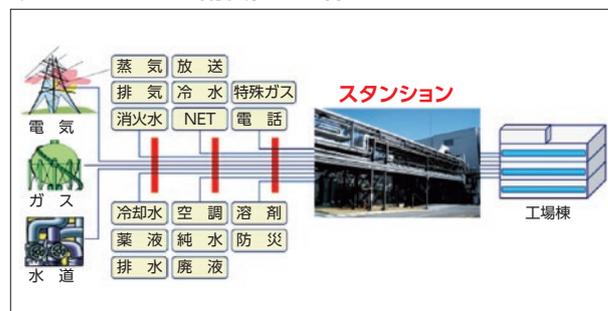
天井部分にある配管に落下防止部材を使い強固な柱や梁に固定し、配管の耐震補強を行いました。



配管のリスク対策

鹿沼事業所、なかだ事業所では、配管からの薬液漏洩防止のため、薬液配管を二重化しています。また、スターションと呼ばれる工場配管・配線を敷設するための共通支持架台は、地震で倒壊すると配管中の溶剤や廃液が流出する恐れがあります。そのため、「地震リスクアセスメント」の診断結果をもとに構造躯体・積載物の重量などを精密に調査・分析し、耐震性能 (IS値) を算出して地震対策を行い、震度6強の耐震性を確保しています。

◆スターションの耐震性の確保



耐震補強漏洩防止工事

鹿沼事業所では、建屋耐震補強および外部スターション鉄骨補強を行ってきました。2012年度からは地震にともなう配管・ダクトの揺れを抑えるとともに、破損による漏洩被害を防止するため、建屋外部・天井裏の配管などの耐震補強を継続的に実施しています。

緊急時の対応訓練

環境管理物質使用状況点検

なかだ事業所では、有機溶剤の取り扱い無事故を継続するために、環境管理物質使用状況の点検を毎年実施し、VOC対象物質などの使用状況と環境事故未然防止のための対策を確認しています。



①保管物と表示の内容が容易に確認



②手順書の見直しの実施



③作業スペースの整理整頓



④台帳管理の徹底

溶剤漏洩対応訓練

鹿沼事業所では、事業部がそれぞれのリスクに対応した訓練を実施し、不具合点や反省点をフィードバックして漏洩対応を改善しています。これまでの訓練の積み重ねで漏洩対応は高いレベルを維持しています。

●屋外での溶剤漏洩時の緊急対応訓練(鹿沼事業所)

ドラム缶に入った有機溶剤を含む原材料の漏洩



①有機溶剤を含む原材料の入った倒れたドラム缶を起こす(中身は水です)



②雨水溝遮断弁を閉める



③応援を要請し、保護具を着用してから回収作業を行う



④雨水用の側溝に流れ込んだ流出物を回収する



⑤火災に備えて消火器を用意



⑥反省会と雨水溝遮断弁の操作手順の再確認

●屋内での溶剤漏洩時の緊急対応訓練(鹿沼事業所)



①有機溶剤の回収作業(中身は水です)



②応援を要請し保護具を着用してから回収指示を行う



③応援者による回収作業を行う



④反省会

海外事業所での溶剤漏洩対応訓練

当社グループの海外工場でも、同様に漏洩訓練を定期的実施し、社員のスキルアップを図っています。

●屋内での化学物質(薬液)漏洩時の緊急対応訓練

(デクセリアルズ蘇州)



①化学物質(薬液)を漏洩(中身は水です)



②化学物質(薬液)の回収作業



③応援要請



④応援者とともに回収



⑤漏洩物の廃棄



⑥回収物は廃棄物専用の収納庫に保管

株主・投資家のみなさまとともに

透明性、信頼性の高い情報開示と誠実なコミュニケーションを通じて、中長期で株主価値の向上を目指します。

情報開示

デクセリアルズは、株主や投資家のみなさまに対する適時・適切な開示が、意思決定の透明性、公平性の確保と実効的なコーポレート・ガバナンス機能を担保するとともに、当社に対する理解の促進や適正な市場評価を通じた株主価値の向上につながると考えています。

このため、2015年7月の東京証券取引所市場第一部への上場時から、法令にもとづく開示だけでなく、ホームページでのIRサイトや株主通信、アニュアルレポートなど、さまざまな形で主体的な情報発信を行い、透明性と信頼性の高い情報開示体制の構築に努めています。

また、利用者にわかりやすく、投資判断に有益な情報開示になるよう、資料での表現や記載方法に配慮するとともに、海外の株主・投資家のみなさまにとり、特に重要と思われる情報については英語版の資料を作成して開示するなどの対応をしています。



IRサイト



株主通信(2016年3月期)

利益還元の方針

当社は、企業価値向上を目的とした持続的な事業拡大および利益成長のための戦略的投資が株主共通の利益に資すると考えており、そのうえで安定的かつ継続的に利益還元を充実させることを基本方針としています。

上記の基本方針のもとで企業価値向上のための成長投資と株主のみなさまへの利益還元の両立を目指していきます。

具体的には、将来の業績・投資計画・手元資金の状況などを勘案しながら、のれん償却前連結当期純利益に対する総還元性向^{※1}40%程度を目処に、安定的かつ継続的な配当と、経営状況や市場環境などに応じて実施する自己株式の取得を組み合わせる利益還元を行っていくという方針です。また、今後も厳しい競争を勝ち抜くため、内

部留保金については将来の企業価値向上に資する研究開発、設備投資などの戦略的投資に充当していきます。

※1 のれん償却前連結当期純利益に対する総還元性向

$$= \frac{\text{総還元額(年間配当金総額+年間自己株式取得額)}}{\text{連結当期純利益にのれん償却額を加えた金額}} \times 100$$

株主総会

当社では定時株主総会の開催にあたり、招集通知の早期発送や情報の充実、和英資料のホームページへの掲載など、株主のみなさまに公平に情報を提供し、権利行使のための十分な情報と検討期間が確保できるようにしています。また、個人株主向けにはインターネット上の議決権行使サイト、機関投資家向けには議決権電子行使プラットフォームをそれぞれ採用し、議決権の電子行使を可能にするための環境づくりに努めています。

IR活動状況

2016年3月期(2015年7月以降)におけるIR活動状況は以下のとおりです。

活動	頻度	内容
国内外機関投資家・アナリスト取材受け入れ、国内機関投資家訪問	155回	● 個別面談に加えてグループミーティングを実施、証券会社主催の投資家コンファレンスに参加
機関投資家・アナリスト向け説明会	3回	● 決算実績・業績見通しを中心に決算説明会を開催 ※ 2016年3月期決算説明会では、中期経営計画「変革と成長2018」に関する説明もあわせて実施
個人投資家向け説明会	9回	● 証券会社支店での説明会や個人投資家向け投資セミナー、各種IRフェアへの参加
IR資料のホームページ掲載	随時	● 決算短信や補足資料をはじめとする開示資料、株主通信、有価証券(四半期)報告書、株主総会関連資料やIRイベントカレンダーなどを掲載 ● 特に重要と思われる情報については、関連リリースおよび資料を英語に翻訳して掲載

お客さまとともに

安心して製品をお使いいただくために、信頼性と満足度の高い製品品質に取り組んでいます。

品質基本方針

デクセリアルズグループは、企業ビジョン「Value Matters 今までなかったものを。世界の価値になるものを。」のもと、技術の追求と高い品質の製品・サービスの提供を通し、お客さまの製品価値向上に貢献することを品質理念として制定するとともに、品質活動に取り組む基本的な方向性を示した品質基本方針を制定し、品質と製品安全に関わるさまざまな活動に取り組んでいます。

【基本方針】

1. 安心・安全な製品・サービスを提供します。
2. 全ての関係法令・規制を遵守するために、製品コンプライアンス体制を構築し、維持します。
3. 継続的なリスク低減活動と未然防止活動を実践します。
4. OJT・教育訓練を通じて、人材の育成・専門性の向上を図ります。
5. 品質マネジメントシステムを活用し、その有効性の向上に努めます。

品質管理

当社グループは、お客さまとのコミュニケーションを通して、お客さまのご要望や技術的課題を共有し、技術面での支援や解決策を提供することで、お客さまの信頼に応え、ご満足いただける製品づくりを目指しています。

当社の全ての製造事業所は、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を取得しており、年度ごとに策定する品質事業計画を実行するプラットフォームとして管理のサイクル(Plan-Do-Check-Actionのサイクル)にのせ、品質目標の達成と品質や製品の安全性の向上に取り組んでいます。

重大な品質問題の発生が懸念される場合も含めて、ステークホルダーに影響をおよぼす品質問題については、担当の部署から直接かつ速やかに経営層に報告し、適切な対応を取る体制を整えています。

製品安全

製品の安全性は最優先との基本方針のもと、製品の安全性を保証しお客さまに安心してお使いいただくために、当社では各種製品安全規格への適合試験を実施し、認証登録を受けています。

品質研修

当社では、品質に強い人材を育成するために、新入社員から専門技術者向けの幅広い階層を対象にした品質研修ロードマップを作成し、基礎的な品質の知識から専門的な知識のみならず、品質におけるコンプライアンスや企業倫理も含めた研修を行っています。

◆ ISO9001 認証取得状況

会社名	製造事業所名	初回認証取得年月	有効期限
デクセリアルズ株式会社	本社	1996年5月	2017年4月30日
	鹿沼事業所	1996年5月	
	多賀城事業所	1993年9月	
	なかだ事業所	2000年2月	
	根上事業所	1996年5月	
デクセリアルズ連結子会社			
Dexerials Europe B.V.		2011年5月	2017年5月27日
Dexerials(Suzhou)Co., Ltd.		2011年5月	2017年5月19日
Dexerials Advanced Materials (Suzhou)Co., Ltd.		2011年5月	2017年5月19日
Dexerials(Shenzhen)Corporation		2008年5月	2019年5月1日
Dexerials America Corporation		2012年1月	2017年9月4日

お取引先さまとともに

公正な資材調達を目指す調達基本方針と、環境に配慮した調達を目指す環境管理物質標準を制定し、公正で環境にやさしい調達に取り組んでいます。

調達基本方針

1. デクセリアルズグループの調達は、「公正・公明・公平」を旨とし、お取引先さまとの相互の信頼関係と協力により成り立ちます。
 - 「公正」とは、定められた方針や手順に従って調達業務を行うこと。
 - 「公明」とは、恣意的な行動をしないこと。
 - 「公平」とは、お取引先さまに対して機会均等に接すること。
2. 技術力の強化、品質の安定と向上、競争力のある価格などの領域においても、お取引先さまとの協同関係を重視します。
3. 地球環境の保全、持続可能な社会の実現に向け、デクセリアルズの掲げる「グリーン調達方針」に従い、お取引先さまとともに環境マネジメントに取り組みます。
4. 法令・社会規範の遵守、社会貢献の実現に向け、デクセリアルズ関係者だけでなくお取引先さまとともに実行に取り組みます。

調達におけるデクセリアルズグループ行動規範遵守について

当社グループは、コーポレート・ガバナンスの強化、および法令遵守と倫理的な事業活動のさらなる徹底を目的として、当社グループの全ての取締役、役員、および社員一人ひとりが守らなければならない基本的な事項を「デクセリアルズグループ行動規範」として制定しました。

お取引先さまとの取引において遵守すべき内容（「公正な調達」「贈答・接待」など）についても、その基本方針をこの行動規範の中に定めており、その遵守徹底に努めています。

グリーン調達方針

当社グループは、地球環境の保全が21世紀における人類の重要な課題の一つとして認識し、地球環境保全と持続可能な社会の実現に向けて、良き企業市民として積極的に取り組んでいます。

デクセリアルズ製品に使用する原材料部品の調達

当社グループでは、地球環境保全に配慮した製品づくりのために「環境管理物質管理標準」を定め、使用禁止や削減を図る環境管理物質とその用途を明確にし、それにもとづく製品づくりを行っています。

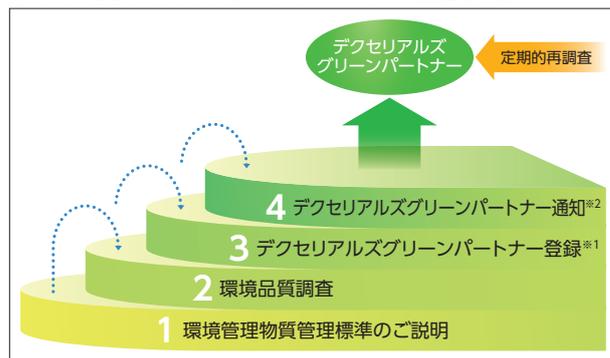
その達成にご協力をいただけるお取引先さまはデクセリアルズグリーンパートナーと称し、原則、製品に使用する原材料・部品は、デクセリアルズグリーンパートナーのお取引先さまからのみ調達します。

環境管理物質管理標準とは

当社グループがお取引先さまに提示している「環境管理物質管理標準」では、当社製品の原材料・部品などに含有される物質のうち、地球環境と人体に著しい影響を持つと当社が判断したものを「環境管理物質」と特定し、管理対象としています。

その環境管理物質について、即時に使用を禁止する物質、全廃をめざす物質、適用除外項目を明確にし、当社製品への混入防止または削減状況の管理を行い、地球環境保全および生態系に対する影響を軽減することを目的としています。

◆ デクセリアルズグリーンパートナー登録制度



※1 基準を満たす企業をデクセリアルズグリーンパートナーとして登録
※2 登録した企業にデクセリアルズグリーンパートナーとなったことを通知し取引開始

紛争鉱物への対応

当社グループは、人権侵害などに関わる紛争鉱物を含む原材料・部品を使用しないという方針のもと、責任ある調達を推進しています。製品を供給する者として当社製品に含まれる対象鉱物のトレース情報を確認の上、お客さまに対して適切に情報提供しています。

地域社会とともに

デクセリアルズグループは、国内外において企業市民として地域に貢献するさまざまな活動を行っています。

国内外で取り組む清掃活動

- 根上事業所では、2015年6月10日に海岸清掃、10月22日には事業所周辺清掃を実施しました。



- 多賀城事業所では、会社周辺の定期的な清掃活動を実施しています。



- なかだ事業所では、2015年5月30日にごみゼロ活動、2015年8月28日に道路ふれあい月間として工場周辺の清掃活動を実施しました。



- 鹿沼事業所では、毎年7月、8月に隣接する稚児沼公園の清掃活動を地域の方々とともに実施しています。
- デクセリアルズ深センでは2015年12月13日に深セン西沖にて海岸清掃を実施しました。



環境への心を育てる 花いっぱい活動

当社では、社員のみならず地域の方々にも環境への関心を持ってもらえるよう、事業所敷地内やその周辺に色とりどりの花を植えています。



登米エコフォーラムに参加

2015年6月5日、なかだ事業所を会場に開催された「第28回登米エコフォーラム」に参加しました。このエコフォーラムは宮城県環境コーディネーターのサポートにより立ち上げられたもので、地域の環境活動を共有し、意見交換することを目的に活動しています。



第28回登米エコフォーラムの様子

宇都宮ブリツェン

当社は、2015年よりサイクルスポーツの振興を通じた地域社会への貢献を目的として、宇都宮ブリツェンを運営するサイクルスポーツマネージメント株式会社とスポンサーシップ契約を結んでいます。

2015年12月23日には子どもたちを交通事故から守る安全教育の一環として「デクセリアルズ presents 自転車教室」を開催し、合計32名の子どもたちが参加しました。また社員有志がボランティアとしてイベントのお手伝いを行いました。



自転車教室の様子

ソニー仙台FC

当社は、アマチュアスポーツの振興と地域社会への貢献を目的として、2014年よりソニー株式会社と、「ソニー仙台フットボールクラブ(ソニー仙台FC)」を支援するスポンサーシップ契約を結んでいます。

2011年に発生した東日本大震災からの復興を目指す宮城県にて、「デクセリアルズ杯 第13回宮城県チャンピオンズカップU-12 大会」を2015年11月28、29日に開催し、将来サッカー選手を夢見る子どもたちを応援する活動を行いました。



会場に掲げられた
デクセリアルズバナー



2015年度デクセリアルズ杯
優勝チーム

中学生社会体験学習の受け入れ

鹿沼事業所では、鹿沼市立の中学生の社会体験学習(マイチャレンジ)を受け入れています。

2015年度は鹿沼市内の中学校から4校、合計19名を受け入れました。製造工程の見学や、熱線再帰フィルム「アルビード」の機能説明などを行いました。



アルビードの機能学習・体験



製造工程の見学

栃木県立聾学校中学部 社会見学

2015年6月9日、鹿沼事業所で栃木県立聾学校の中社会見学会を受け入れました。生徒15名と教員8名が訪れ、製造工程の見学、社員から手話による説明を受け当社への理解を深めました。また、生徒からの質問に対して当社で働く聾学校の先輩社員が答えることで、仕事に対する考えややりがいについて意見を交換しました。



社員による手話説明の様子



先輩社員との集合写真

社員とともに

デクセリアルズは、多様な働き方を実現するため女性の活躍推進、ワーク・ライフバランスの実現、外国籍社員の採用、高齢者の活用、障がい者の雇用促進の5つの点において積極的な取り組みを行っています。

ダイバーシティの推進

女性の登用・育成の推進活動

当社で働く女性社員は、社員全体の約19.6%にあたり、2016年3月時点の平均勤続年数は男性が18年2ヶ月、女性が18年11ヶ月と女性社員も長期的に活躍しています。2014年からマネジメント職を対象に、女性活躍推進やワーク・ライフ・バランスに関する講演会を実施し、社内啓発活動やノー残業デーの徹底など、時間内に効率的に働くワークスタイルの確立や仕事と育児の両立支援に取り組んでいます。

ワーク・ライフ・バランスの実現

社員の仕事と家庭生活の両立を目的とした仕組みや制度を導入しています。

育児

当社は、育児休暇などにおいて法律を上回る両立支援制度を整備し、男女ともに柔軟な勤務ができるようフレックス勤務制度や育児短時間勤務制度を設けています。また、育児休業中でも社員が自宅で会社の情報に触れたり、自己啓発や上司とのコミュニケーションを深めることができる「育児休業者能力アップ支援システム」を導入し、スマートフォンからでもeラーニングの受講や、社内ホームページ



かめま子育て
応援企業

ジの閲覧を通して会社の情報を得ることができます。

こうした取り組みから、厚生労働省が子育て支援を行う企業に付与する「くるみんマーク」や「かめま子育て応援企業認定」を取得しています。

介護

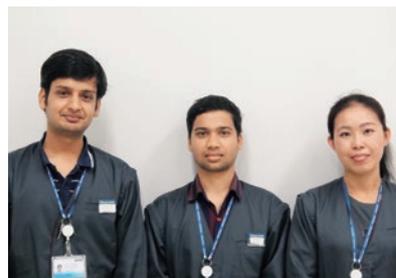
社員が要介護状態にある家族の介護を行うために短時間勤務制度や1年間の休職制度を設け、介護離職ゼロを目指し取り組んでいます。

外国籍社員の採用

当社グループの売上高比率は海外が7割を占めており、国内事業所においてもグローバルに活躍できる人材を求めて、外国籍社員を積極的に採用しています。直近の外国籍社員の採用実績は以下の通りとなります。

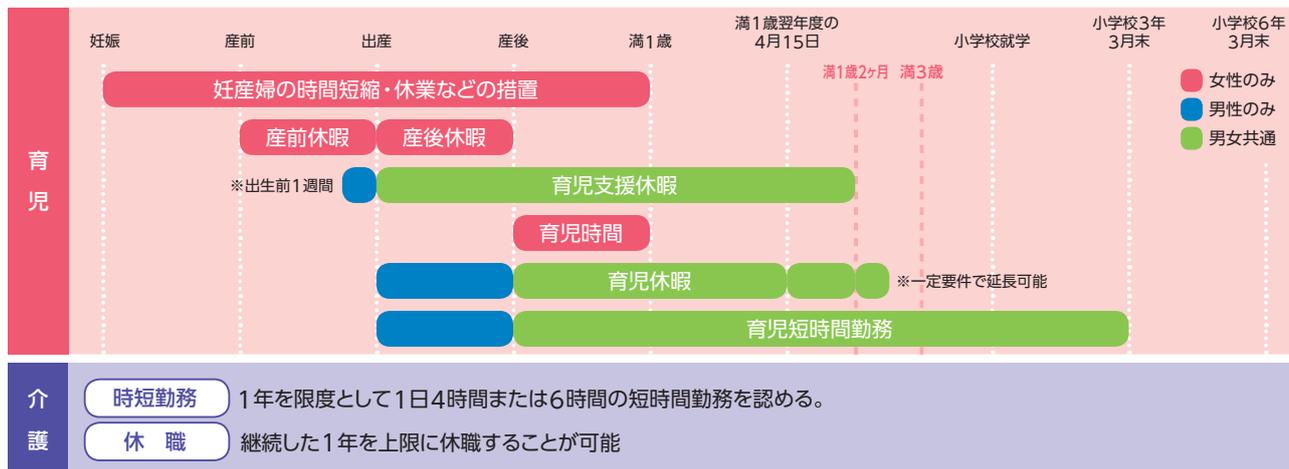
年度	入社人数	国籍
2015	3名	中国・インド
2016	3名	中国・インド・ロシア

また、出身国の壁を越えて社員がいきいきと働けるよう、英語での研修や配属先社員の異文化研修、社員食堂でベジタリアンメニューを揃えるなどの職場環境づくりを行っています。



2015年度 外国籍新入社員

◆ 主な仕事と育児・介護の両立支援制度



高年齢者の活躍推進(再雇用制度)

2006年の「高年齢雇用安定法」の改正以降、当社では60歳の定年に到達した社員の再雇用制度を法に準拠して運用してきました。その中で定年到達後も長く働いてほしいという社員の思い、また会社としての労働力確保と合わせ、2016年4月に「定年後も安心して長く働ける仕組み」として、希望する全ての社員を65歳まで雇用する制度に改定しました。定年後もこれまでに培ったスキルを活かせる仕事、または新たな領域での仕事含め、社内での活躍の場を創出し、定年退職後もいきいきと働ける取り組みを行っています。

障がい者雇用の推進

デクセリアルズ希望(株)は、障がい者雇用に推進する「特例子会社」として2015年4月に事業を開始してから1年が経過しました。当社は、障がいのある方が安心して働ける職場環境を整備することで社会的責任を遂行し、現在、社員23名(内障がい者12名)がデクセリアルズ構内で、清掃、緑地管理などの事業活動を行っています。なお、親会社に子会社を含めた障がい者雇用率は約3.0%となります。



デクセリアルズ希望(株)の社員

研修制度

当社では、社員一人ひとりの専門性とスキルを伸ばし、価値を創造する人材の育成に力を入れています。階層別研修、4つのジョブファミリー（製造系、技術開発系、営業系、企画/管理系）ごとの、業務の専門性、スキルアップに特化した研修や自己啓発プログラムを提供しています。

階層別プログラム	ジョブファミリー別プログラム	ビジネススキルプログラム
新入社員研修	製造系	プレゼンテーション
中堅社員研修	技術・開発系	ロジカルシンキング
マネジメント研修	営業系	語学研修
リーダー開発研修	企画・管理系	キャリア開発

またハラスメントの防止やコンプライアンスの徹底など、年間を通じてさまざまなe-ラーニングも実施しています。今後はグローバル人材や技術開発、組織力の強化を目指し、次世代を担う人材を育成していきます。



2015年度春 新入社員 研修

ランドセル贈呈式

当社では毎年、社員のお子さまの小学校入学をお祝いし、ランドセルの贈呈を行っています。各事業所に対象のお子さまとご家族をお招きし、社長や役員の手から直接お渡ししています。今年は全事業所で計84名の新小学1年生にランドセルをお渡ししました。また、式典後は各職場や工場の見学も行い、思い出となるよう工夫しました。



式典の様子



工場見学の様子



デクセリアルズ 株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2

ゲートシティ大崎イーストタワー8F

TEL 03-5435-3941 (代表)

URL <http://www.dexerials.jp>

本報告書に記載されている会社名および製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中ではTM, ®マークは明記しておりません。

©2016 Dexerials Corporation



記載内容 2016年7月現在